

そしてバトンは渡される！

＜令和3年11月24日 生徒会役員選挙あいさつ＞

ある調査によると、現在世界では、87の国が民主主義国と言われ、92の国は非民主主義国とされています。実は、世界全体を見渡すと、民主主義国よりも非民主主義国の方が多いのです。非民主主義国の代表格は、いわゆる独裁国家です。

一部の人間や権力者が決めたことを何の疑問ももたずに忠実に従っていくシステムを肯定する人間も存在しますし、自由が極端に制限されたり平等が保障されていない国もあります。しかし、私たちの国はそうではありません。

山淵中学校も、生徒会会則の前文で、次のように高らかに謳っています。「互いの人格を尊重し合い、真理と正義を愛し、民主的な文化を理想とする・・・」と。今日は、その理想への新たな第一歩だったわけです。

今日の生徒会役員選挙に立候補した皆さんの態度や立ち居振る舞い、演説の内容、とても感動しました。たとえだれが役員になるにせよ、必ず素晴らしい生徒会を築いていってくれるものと、とても頼もしく感じながら演説を聞いていました。

山淵中学校としてさらなる高みをめざすために、全校生徒の皆さんにお願いしたいことを3つお話しします。

1. 「生徒会」とは、「生徒会役員」を指すではありません。「生徒会」＝「生徒全員の会」＝「自分」なのです。生徒会役員がどれだけ能力が高くても、どれだけがんばっても、素晴らしい学校にはならないのです。

以前にも、ケネディ大統領の演説を引用して伝えましたが、大切なのは、学校をよくするために何ができるかを考え行動するのは、役員のみならず、あなた方生徒一人一人の責任なのです。

2. 選挙では、今回のように役職で複数の立候補者がいると、もちろん当選する人とそうでない人の結果も出ます。ですが、当然のことながら、それぞれの人間の価値や優越を問うものではありません。競争でもありません。当選した人は、その結果をただ謙虚に受け止めるだけ。一方、役員になれなくても、落胆する必要などこれっぽっちもありません。ぜひ、自分に票を入れてくれた人や応援してくれた人の思いを大切にしてください。

そして、私が過去に生徒会の担当をしてきた経験から、いい生徒会は、必ずと言っていいほど、当選した人ががんばるのは当たり前、それ以上に、選挙で敗れた生徒が、実際に役員になった生徒以上にがんばってくれた、そんな生徒会でした。

3. いろいろ実施している皆さんのアンケートの中で、「学校生活は充実していますか？楽しいですか？安心して生活していますか？」といった類の内容の回答結果をみると、山潟中学校の生徒は、約70%の人が「とても充実している」、約25%の人が「まあまあ充実している」と答えています。

ということは、逆に約5%の人は、学校生活が「充実していない、楽しくない」と感じているわけです。

私は、0%にしたいのです。だれもが「自分は山潟中学校の生徒で本当に良かった」と胸を張れる学校に。ぜひ、生徒会にもそういった学校を目標にがんばってほしいもの願っています。

今回の生徒会役員立候補生徒の堂々とした姿、選挙運動での周囲の応援の様子等々、来年度を見据え、特に2年生による学校のリーダーに向けた意気込みがひしひしと伝わってくる選挙運動期間でした。

2年生そして1年生には、今後の本部役員や専門委員長の選出も含め、しっかり現3年生からのバトンを引き継ぎ、令和4年度という大空に向けてしっかり羽ばたけるように、これからの期間を、大いなる推進力で前進する助走期間にしてほしいと期待しています。